

# 季報34

本法人の広報誌を国見の自然あふれる四季とともにお届けします



月が今年最も大きく見える「スーパーブルームーン」を本学敷地内から見ることができました

※本誌掲載の写真については、感染症対策のため撮影時のみマスクを外しています。

## contents

- P 1 表紙
- P 2 秋保ワイナリーで「クラフトバレーマルシェ」を開催
- P 3 探求・理解プロジェクトについて
- P 4 まなびのコラム（建築環境学科）  
「新型コロナウイルス感染症の対策  
～密閉空間の改善と熱中症の予防」
- P 4 まなびのコラム（臨床工学科）  
「最近の不整脈治療について」
- P 5 フェンシング部  
「特別国民体育大会東北ブロック予選大会  
フェンシング競技について」
- P 5 剣道部  
「東北学生女子剣道優勝大会に向けて」
- P 6 専門学校NEWS
- P 7 友愛幼稚園「夏の遊び～水遊びを楽しもう～」
- P 7 久慈幼稚園「親子収穫体験」
- P 7 寄附芳名一覧（2022 年度）
- P 8 研究紹介（建築環境学科 須藤 諭教授）

季報 34 号では、秋保ワイナリーで開催した「クラフトバレーマルシェ」の様子と支援学生が学ぶ探求・理解プロジェクトについて紹介します。まなびのコラムでは、密閉空間での換気についての解説と、最近の不整脈治療について紹介しています。





## 秋保ワイナリーで「クラフトバレーマルシェ」を開催（探求・理解プロジェクト「輝ける者」）

2023年8月5日・6日の両日、秋保ワイナリー（仙台市太白区）で人と地域と音楽が交わるイベントとしてクラフトバレーマルシェを開催しました。このマルシェは、秋保ワイナリーとの共催で、今年で3回目の開催となります。

秋保ワイナリーキッチンカー、カフェ、スイーツなどのお店が出店し、アートキャラバン宮城圏域ホール連携事業実行委員会の協力のもと、名雪祥代 Jazz Group feat. 渡邊 滉介による野外 JAZZ ライブも行いました。

マルシェには、全学共通教養科目 探求・理解プロジェクト「輝ける者」を受講する学生 51 名が参加し、ライブの企画や来場者の誘導、体験ブースの運営を行いました。

学生は6月からグループごとに模擬会社を設立し、それぞれのコンセプトで来場者の皆さまに楽しいいただくことを目的に企画を考え準備をしてきました。当日は、天候にも恵まれ、地元出店者や来場者の方との交流を楽しみました。





## 探求・理解プロジェクトについて

左頁で紹介した秋保ワイナリーでのクラフトバレーマルシェは、本学の学生が必ず受講する「探求・理解プロジェクト」の実践のひとつとして開催されました。

「探求・理解プロジェクト」とは、学生が本学の建学の精神である「輝ける者を育む」を学び、体得するために用意された下表の7科目からなる教養プログラムです。総合大学の特色を活かし、学部を横断して様々な分野の教員がチームをつくり、豊かな人間性、生涯にわたる学ぶ姿勢と考える力を育むことを目的としています。

| 科目名（目的）                  | 内容                                                                                                                    |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 輝ける者<br>（自己の探求・理解）       | 仙台の音楽文化や地域の地場産業を含めた実効的な地域創生事業を学び、実践し、提案できる力を養う。その際に地域企業や市民、芸術文化を支える地域の才能を巻き込み、イベント等で実践できる豊かな人間性、協調性、コミュニケーション力を身につける。 |
| 人間文化探求<br>（人間の理解）        | 私たち一人ひとりの生き方を「人間文化」と捉え、その多様性に触れながら、人生の価値、意味、目標など人間にとって根源的・普遍的な課題を探究する。授業は隔週で行う。                                       |
| 地域活動・ボランティア<br>（地域共生の理解） | 様々な領域の活動に取り組み、現代社会に生きる自己の存在の有用性を獲得する機会とするとともに、理想とする地域社会の構築に向けた一員としての意識と態度の涵養を図る。                                      |
| 生命を考える<br>（生きることの理解）     | 「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義と意見交換を通じて考える。                                                        |
| 現代社会を視る<br>（多様性の理解）      | 現代社会の多方面の課題について「多様性の理解」をコンセプトとし、社会の中での自己の役割を考え、英語と日本語を使ってグループで討論する授業。                                                 |
| 生活の中の科学<br>（生活における科学の理解） | 「安全・安心」をキーワードに、現在の科学技術がいかに我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来のあるべき姿について学ぶ。                                                     |
| ボランティア探求<br>（社会的実践力の強化）  | 各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティアの指導者並びにNPO・NGO実践者・指導者等を目指すことを目的とする。                                                         |



なかでも、「輝ける者」は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の3つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育み、最終的には自身の働き方、生き方を考えることを目的としています。

### ①地元の産業を支えるとは

最前線で活躍しているゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考えます。地元企業・団体を招き学生によるインタビュー調査も実施します。

### ②地元の文化を支えるとは

芸術文化の中でも音楽に焦点を当て、生活と音楽の繋がりを、音楽やイベントを支える仕事について理解を深めます。仙台フィルハーモニー管弦楽団の地域貢献の講義、定期演奏会の鑑賞を通して音楽イベントの運営についても学びます。

### ③地元を支える活動の実践

グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践します。秋保ワイナリーと連携して、マルシェ（感謝祭と市場）を開催し、様々な体験を通して、地域貢献のあり方を考えます。

## コラム

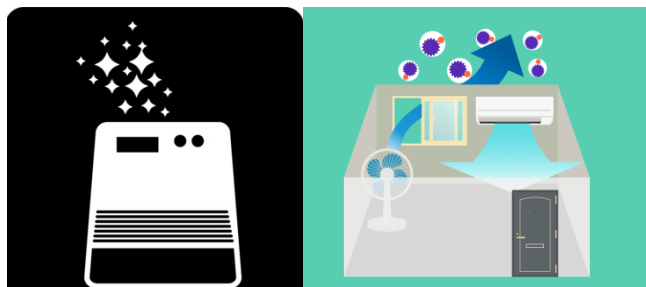
## まなびのコラム「新型コロナウイルス感染症の対策～密閉空間の改善と熱中症の予防」

新型コロナウイルス感染症予防の基本は換気です。特に、夏場は家電製品からの放熱や日射により、室内温度が高くなりがちです。エアコンや扇風機を活用して熱中症を予防します。

窓開け換気では、対角線上にある窓やドアを2か所、5センチ以上開けて常時換気を行います。窓が1つしかない場合は、部屋のドアを開けて、扇風機などを窓の外に向けて設置しましょう。

常時換気が難しい場合は、30分に1回を目安に、窓を数分間全開にして換気します。

エアコンを優先しながら24時間換気装置や換気扇を活用して、最小限の換気量を確保しますが、24時間換気装置がない場合は、浴室やトイレの換気扇を常時運転させて



引用：神奈川県 HP（新型コロナ対策 - 適切な換気でエアロゾル感染を防ぐ）

おきます。

換気不足を補うために、集じん効率の高い空気清浄機（特に、HEPA フィルターを使用するもの）を併用します。

HEPA フィルター使用の空気清浄機は、エアロゾル状態のウイルスを含む微粒子をしっかりと捕集します。この場合、空気清浄機の風量が重要であり、毎分5m³程度以上のものが推奨されています。人の居場所から10m³（6畳）程度の範囲内に空気清浄機を設置し、空気のだよみを発生させないように、外気取り入れの風向きと空気清浄機の風向きを一致させるようにします。HEPA フィルターを使用しない電気集じん式の空気清浄機にも集じん効率の高い空気清浄機が発売されていますが、機種により性能差が大きいのも実状です。



野崎 淳夫教授

〔筆者〕

科学技術学部 建築環境学科  
教授 野崎 淳夫

〔担当〕

健康インテリア、建築環境工学、建築環境技術論、健康インテリア設計、健康リフォーム演習ほか

〔研究テーマ〕

建築環境工学、室内環境学、室内環境予測、室内環境制御、建築設計

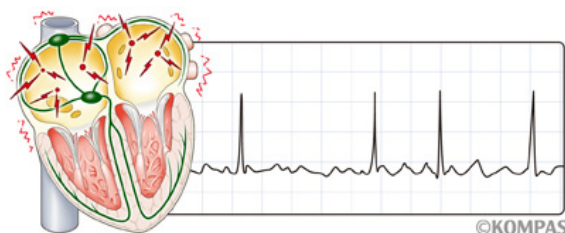
## コラム

## まなびのコラム「最近の不整脈治療について」

近頃、スマートウォッチなどのCM等でも「不整脈の早期発見」、または「心房細動」という言葉を目にする機会が増えたように思います。「心房細動」は不整脈の一つで、それ自体は命の危険を脅かすものではない一方で、脳梗塞など命に関わる合併症が起こる可能性があります。

心臓内の左右の心房は、通常、「洞結節」と呼ばれる部位が発信する電気信号が心房壁に伝わり、規則的に収縮、拡張して下流にある左右の心室に、そこから全身、両肺に血液を送り出しています。この心房・洞結節の動きに異常があると不規則的な動き、いわゆる不整脈が発生し、心拍が早くなったり遅くなったりします。自覚症状がない場合もあります。

治療方法は、薬物療法（抗不整脈薬、抗凝固薬：脳梗塞



不整脈のひとつ「心房細動」の治療は臨床工学技士のサポートが欠かせない  
（慶應義塾大学病院 KOMPAS から許可を得て転載）  
<https://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000399.html>

の予防)、電気ショック（除細動）、そして外科的手術がありました。最近ではカテーテルによる治療が増加しています。「カテーテルアブレーション」と呼ばれる内科的治療で、数本のカテーテル（細い管）を脚の付け根から血管を通して心臓の内部に挿入し、そのカテーテルを使って異常な電気信号を発している箇所を見つけ出し、その部位を焼灼したり冷凍凝固したりする治療です。

この治療には臨床工学技士が欠かせない存在となっています。循環器医師の補助として重要な役割を担い、異常箇所の発見のための装置の操作やアブレーションにも関わります。医師の働き方改革から臨床工学技士の業務が拡大しているのです。



相澤 康弘学科長・教授

〔筆者〕

工学部 臨床工学科  
教授 相澤 康弘

〔担当〕医療安全管理学、生体計測装置学、医用治療機器学ほか

〔研究テーマ〕

医療機関における医療機器の安全対策  
医療機器の電波による影響  
安全に医療機器を使用するための教育  
医療機器事故事例の検証とその対策



## 大学

## 特別国民体育大会東北ブロック予選大会フェンシング競技について（フェンシング部 監督 齋藤 有）

この度、2023 年特別国民体育大会東北ブロック予選大会フェンシング競技（一関）へフェンシング部から6名の部員が各県代表選手へ選出されました。監督である私も宮城県成年男子の選手兼監督として参加し、宮城県成年男子フルーレにて優勝することができました。

東北の成年選手は全国的にもトップレベルの選手が多く、国体でも数多くの栄光の道を歩んできました。その新たな東北の歴史に本学フェンシング部員たちが貢献し、実力の全てを出しきり、ふるさとの県代表選手として、地元の方々への恩返しの機会になれば大変うれしく思います。

また、特別国民体育大会『燃ゆる感動がこしま国体』に

も宮城県成年男子フェンシング競技フルーレ、サーブルに監督兼選手にて出場いたしました。同大会にてフェンシング部員の山形県成年男子代表選手1名、福島県成年男子代表1名も国体選手として選抜されました。結果は宮城県、山形県ともに成年男子フルーレベスト16でした。

日頃より大学で部員たちは切磋琢磨し、4人のコーチスタッフにも恵まれ、とても良い環境で練習させていただいております。強化部として多くの国体選手を輩出できるように、今後とも選手たちを大切に育成していきたいと思えます。



宮城県代表の齋藤 有監督・選手



山形県代表の青柳 雄大選手（経営法学部3年）



福島県代表の高木 夢生選手（現代社会学部2年）

## 大学

## 東北学生女子剣道優勝大会に向けて（剣道部 監督 菅野 良信）

大学からのご協力やご支援があり、部としての活動が充実し活動しやすくなりました。御礼申し上げます。

大学の夏季休暇中は益々暑さが厳しくなるなか、部員一同練習に取り組んでおりました。部員達は10日ほどの休暇を経て練習も充実してまいりました。

9月には剣道部員最大の目標である東北女子学生剣道優勝大会が行われましたが、残念ながら予選リーグ敗退となりました。昨年は創部2年目で、全日本学生優勝大会に出場し活躍することができましたが、本年度につきましては、他大学も強力な新入生を迎え大変厳しい戦いとなりました。

本学の剣道部は、選手が全力で剣道に打ち込みながら、自分を信じ、仲間を信じる、そのチームワークは東北一番だと考えています。12月には、1・2年生が試合に臨む第2回東北学生剣道新人大会がありますので、この気持ちと気迫をもって目標達成できるように大会に臨みたいと思っておりますので応援の程よろしく願いいたします。



## 専門

## 前期授業終了！（視能訓練士科）

3年生は不安でいっぱいだった臨床実習が終わりました。それぞれが掲げた目標を達成するために精一杯取り組んでいたようで、教員の巡回でも臨床でしか学べないことを吸収している様子が伝わってきました。今回学んだことを、将来のために、そして2月に行われる国家試験につながるように頑張れ！！

2年生は保育学の授業として、友愛幼稚園の体力測定をお手伝いしました。最初に小児の運動能力について、保育学の先生から講義を受けました。そして体力測定を練習。



園児に分かりやすく教えるために覚えようと必死です。そしていよいよ園児とご対面！元気いっぱいの園児たちには圧倒されましたが、多くのことを学ぶことができました！

1年生は、解剖生理学の授業で豚の眼を解剖し、実際に触りながら構造を学びました。最初は戸惑っていた学生も、だんだん慣れてしっかり観察できました。部位によって色や形が違うので、一生懸命確認しながら解剖していました。これで眼の解剖はばっちり！



## 専門

## 社会福祉科の近況報告です（社会福祉科）

新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類感染症に移行された5月8日より、社会福祉科2年生のソーシャルワーク実習がスタートしました。初日が類型の変更という対応が難しい状況の中でのスタートでしたが、実習施設の協力もあり、スムーズに実習に臨むことができました。実習中盤では、ケースワークを中心に、担当利用者との関わりを通してアセスメントやプラン作成を実践し、ケースカンファレンスを開催させていただきました。実習後半では、利用者理解にとどまらずご家族や地域の方々に視点をあてて、グループワークを通して、ソーシャルワークを学

ぶことができました。

また7月7日の七夕の日に合わせて、1年生2年生合同の七夕ミニコンサートを開催しました。今回は、Hump Backの「拝啓、少年よ」やあいみょんの「愛の花」、RADWIMPSの「前前前世」など全6曲を演奏し、会場は大いに盛り上がりました。学園祭でも音楽コンサートを開催する予定です。是非、東北文化学園専門学校“社会福祉科”ブースまで、聞きに来てください。





## 幼稚園

### 夏の遊び ～水遊びを楽しもう～（幼稚園型認定こども園友愛幼稚園）

梅雨明け間もなく幼稚園は夏休みとなりました。今年の夏は例年になく猛暑が続いておりましたが、預かり保育を利用する子どもたち（一日あたり 35 人～ 40 人）は元気いっぱい過ごしています。夏休みの預かり保育では、朝の集まりを終えると、すぐ水着に着替え園庭で水遊びを楽しみます。雨どいで水路を作り、水を流して泥んこ池を作ったり、シートに貯めた水を持ち上げて高く飛ばしてみたりと、水や泥んこの触り心地のよさを全身で感じながら、水のおも



しろさを友だちと一緒に味わっています。水と遊ぶ中で、冷たさを感じ、見て、触って、音を聞く等、水の動きの変化に五感が刺激を受け、水のおもしろさに気づき、次から次へとアイデアを出し合い遊びが広がっていくのを実感しました。

これからもこの時期ならではの遊びを存分に楽しめるよう、子どもたちの遊びを見ながら環境を準備していきたいと思います。



## 幼稚園

### 親子収穫体験（幼保連携型認定こども園久慈幼稚園）

6月に園の畑に植えた枝豆がたわわに実りました。今年の夏は猛暑と大雨が交互にやってきて生育が心配されましたが、収穫時期が予定より1週間ほど早まり、8月18日に「親子収穫体験」が初開催されました。房付きの姿で登場したたくさんの枝豆を見て、みんなの表情がパッと明るくなりました。一人65個ずつに割り当てられた枝豆の数を、間違わないように小さな声で「1、2、3…」とお父さんお母さん方の横で数える子ども達の姿に微笑んでしまいました。



収穫が終わると、枝豆の食べ方についての討論会が始まり、「僕は茹でて食べる」「枝豆ご飯がいいな」「お味噌汁もいいね」と、会話を弾ませていました。他に収穫したナスやキュウリ、スイカなどの野菜や果物は、給食の食材と一っしょに調理してもらい、みんなで「おいしい」を共有することができました。

それまで時間をかけて育てた野菜を収穫できたときの喜び、そして保護者と収穫した旬の野菜を食べる楽しみにつながった親子収穫体験となりました。

## 報告

### 2022 年度 寄附芳名一覧

2022 年度に学校法人東北文化学園大学に寄附をいただいた企業・個人の方のご芳名を本学 WEB に掲載させていただいております。

学校法人東北文化学園大学は、文部科学省より「税額控除対象法人※」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、本法人へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。※ 2022 年 6 月 20 日以降にご寄付いただいた方が対象となります。



東北文化学園大学  
寄附金ページ



私の研究は、都市環境学と建築設備学を領域としてきました。

仙台に着任して30年ほどが経ちますが、当初から取り組んだのが、建物エネルギー消費特性の調査です。従来、この手の調査は首都圏中心で進んでいたもので、例えば省エネ法の基準等は地方への考慮が薄く、早急に取り組むべきと考えました。調査結果は、東北地方の建物用途別エネルギー消費原単位としてまとめ<sup>1)</sup>、建物エネルギー消費診断ガイド<sup>2)</sup>等も公開しました。その後の省エネ法の改正で、エネルギー消費原単位は建物の省エネ推進基準として導入され、全国的データベース（DECC）<sup>\*1</sup>が必要となり、私の研究室は東北地方の事務所、宿泊、福祉施設の調査を担当、学術的にはこれら調査から、建物規模、導入設備、稼働状況、気候条件等を説明変数として建物エネルギー消費原単位を実用的精度で推定できることを示しました<sup>3)</sup>。

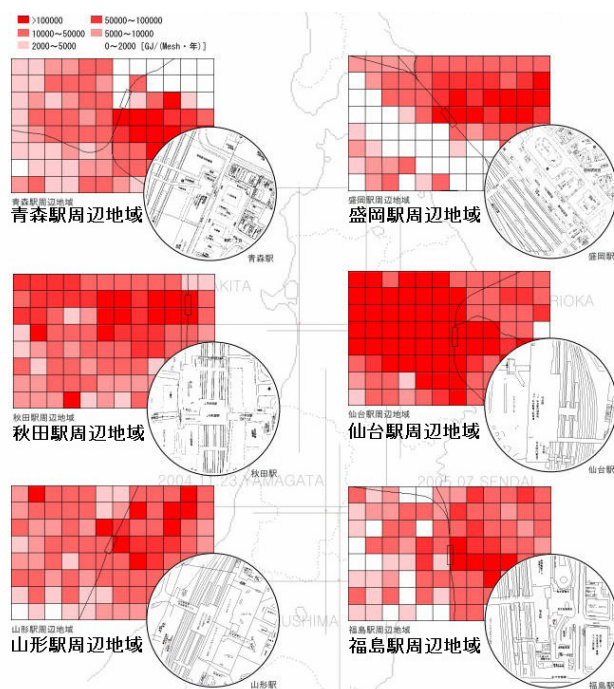


図1 東北各都市主要駅周辺地区のエネルギー消費密度

DECC等を利用した応用研究としては、東北地方の地域エネルギー消費構造の把握に、地理情報システム（GIS）<sup>\*2</sup>が得意な同僚の川村広則先生とともに取り組みました。東北各県の建物高密度地域を対象として、建物の用途、階数、構造等建物データベースを構築し、DECCデータと組合せて、地域メッシュ単位でエネルギー需要を評価したものです<sup>4)</sup>。地域レベルでの環境負荷定量化の方法論を実証的に示したものとと言えます。

一方、2000年頃から東北地方では地震被害が見られるようになり、その頃から建築設備の地震被害調査<sup>6)</sup>にも携わるようになりました。その関連から、災害時を想定した非常用給水装置の検討を行い、プロトタイプを本学受水槽に設置したのが2010年のことでした。2011年3月の東日本大震災の折には実際にこれを稼働し、12,000～15,000人分の飲料水を地域に提供できました<sup>5)</sup>。各地の水道は復旧までは20日以上を要しており、受水槽を有する施設にはこのような非常用給水装置の設置をお勧めしている次第です。

#### 注

\*1 The Database of Energy Consumption for Commercial Buildings

\*2 Geographical Information Systems

#### 参考文献

- 1) 須藤諭・三浦秀一・渡辺浩文：東北地方における業務用建築のエネルギー消費実態調査（第1版）、1999.08、（第2版）、東北都市環境研究グループ、2000.01。
- 2) 須藤諭・三浦秀一・渡辺浩文：東北地方版建物のエネルギー消費診断ガイド、（財）省エネルギーセンター地域省エネルギー広報活動支援事業、東北都市環境研究グループ、1999.12。
- 3) 井城依真・須藤諭・他：事務所建物のエネルギー消費原単位の推定に関する研究、日本建築学会環境系論文集、第673号、pp.203-211、2012.3
- 4) 須藤諭：地域エネルギー消費構造の評価に関する試み、仙台都市研究 vol.5、pp.31-44、東北都市学会、2006.08。
- 5) 須藤諭・岡田誠之：東日本大震災時の飲用水の供給実績（災害時非常用給水装置と学内の給水状況）、日本建築学会東北支部研究報告集第74号、2011.06。
- 6) 岡田誠之・須藤諭・他：東日本大震災以後の新築建築物における建築設備の震災等防災対策実態調査、空気調和衛生工学12、Vol.95 No.12、pp.2-10、2021.1



写真1 筆者永年勤続年表彰式にて



写真2 東日本大震災（2：46 停止の本学時計台）



写真3 地域への緊急給水の実施状況

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。  
また、記事掲載のご要望等あればご連絡ください。

#### ■連絡先

学校法人東北文化学園大学 総務部総務課  
〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見 6 丁目 45-1  
TEL 022-233-3330（代表）FAX 022-233-9875  
メール pr@office.tbgu.ac.jp